

三 万延元年十二月 吾妻郡立石村百姓の麻・蛹前金証文

[B]

麻・蛹前金証文之事 さなごまねきん

屋敷四畝歩 此畑□塚

一金五両也 此書入 屋敷添式畝五歩

此畑合五塚

前原名所式畝式十式歩

右者、此度無_レ抛よんどころなきよう要用_ニ付、貴殿江御無_レ心つかまつり」仕候处、御承知

被_レ下、書面之金子たしか慥_ニ請取、借用「申处実正_ニ御座候、但し、

此金返济之儀者、」来ル六月・八月、我等手作之麻・蛹不_レ残」

貴殿江壳渡し、代金ニ而元利共急度御返济」可_レ仕候、若麻・蛹

不作_ニ付、御勘定いたし兼候ハ、」前書之地所請人引受、金子

代替、急度」御勘定可_レ仕候、賀様相定メ申候上者、何様之義」

出来候共、其節そのせつにいたり至少いらいらん茂違乱申間敷候、」為_ニ後日_ニ借用証文、

仍而如_レ件

草木原

万延元年

奥右衛門[㊦]

申十二月

請人

吉兵衛

羽根尾村

利宗 治殿

前書之通り相違無_レ之_ニ付、奥印致候、以上

立石村

名主

権 平[㊦]